



## 世界の食糧危機の現状と私たちに出来ること



2017年現在、飢餓に苦しんでいる人口は世界に8億2,100万人で、およそ9人に1人が飢餓に苦しんでいます。また、同年に発表された「世界の農林水産」によると、世界人口は「2050年には、現在の72億人から97億人へと増加する」と予想されています。

現在、世界の穀物生産量は毎年26億トン以上で、世界中の人が十分に食べられるだけの食糧は生産されている一方で、世界で8億2,100万人が食糧不足に陥っています。また、ソマリアは、5歳児未満死亡率が世界1位で、8人に1人が5歳未満で亡くなっています。

先進国に住んでいる私たちが発展途上国に支援を行うことは大切なことですが、それ以上に食糧廃棄について考える必要があります。日本の食糧廃棄物は、年間2,759万トンです。そのうち、食べられるのに捨てられる食品ロスは、農林水産省・環境省の2016年度の推計で643万トン。本来であれば食べられるはずの食糧が大量に廃棄されているのです。金銭的な支援を行う以上に、食糧の廃棄を見直すことで救われる命があります。飢餓・食糧問題は、先進国に生まれて生活をしている私たちには、実感できないかもしれませんが、しかし、海を越えた開発途上国では、確実に大きな社会問題となっているのです。開発途上国の飢餓・食糧問題の現状を知り、私たちができる小さな支援から始めていきましょう。

### 参考文献

国際連合食糧農業機関 (FAO) 「世界の食糧安全保障と栄養の現状 2018」  
政府広報オンライン「もったいない! 食べられるのに捨てられる「食品ロス」を減らそう」  
ハンガー・フリー・ワールド「飢餓とは」